

釜石市議会議員 小野 共

釜石市議会通信

第2号



新年おめでとうございます。昨年は皆様にお世話になり本当にありがとうございました。今年も宜しく御願ひ致します。

さて、去年の12月議会は12月10日から25日まで16日間開かれました。12月10日は野田新市長の所信表明演述と、4件の市長報告がありました。

1件目は、橋野高炉跡、釜石鉱山など28件の製鉄関連施設が国の経済産業省の近代化産業遺産に認定されたとの報告。

2件目は、釜石製鉄所東門前の国道283号と、構内を通り抜けた港町の市道の部分が、輸送車両の重量の規制が緩和され構造改革特別区域（特区）に認定されたとの報告。

3件目は、旧釜石市民病院がした財団法人長陵医学振興会への寄付金を、釜石市が返還するよう請求すべきとの訴訟が、原告の請求棄却で判決が確定したとの報告。

4件目は、株式会社パースジャパンから釜石市が訴えられていた、旧市民病院のテレビ、冷蔵庫などのレンタル用品についての損害賠償支払請求について、釜石市が和解金として900万円を支払うことで和解が成立したとの報告。

12月19日、20日、21日は釜石市政に関する一般質問があり、議員12人が市政を質しました。

最終日12月25日は議案の審議日で、15件の議案と3件の議議案を可決しました。15件の議案のうち6件は予算を補正するもので、議案で最も時間をかけたのは、「釜石千年の森」条例に関するものでした。千年の森の指定区域選定の経過と理由、千年の森条例の必要性など活発な議論がなされました。

12月20日は、9月議会に続き、私が一般質問しましたので質問と答弁の一部を記載いたします。

12月定例会一般質問（平成19年12月20日）

釜石の発展とは、具体的に何のことを言うのか。例えば釜石の発展とは、人口が増えたことなのか、市民一人あたりの平均所得が増えたことなのか、平均寿命が伸びたことなのか、産業の工業化が進んだことなのか、人口あたりの医者の数が増えたことなのか、出生率が高くなったことなのか、乳児の死亡率が下がったことなのか、一人あたりのGDPが増えたことなのか、有効求人倍率が上がったことなのか、高校生の大学の進学率が上がったことなのかなど、釜石の発展にも様々なものがあります。

例えば、今、発展の1つとしてあげた産業の工業化は、国内において、ある程度歴史的に公害、環境破壊を伴っておりまして。一般に産業の工業化は発展と考えられますが、環境保全を釜石の発展とするならば、公害、環境破壊を伴う産業の工業化は、発展ではなく後退です。例えば、大正から昭和の40年代にかけて国内において、4大公害病の発生が確認されております。産業の工業化と環境破壊が連動しているのであれば、産業の工業化を我々がその地域の発展と考えることが出来るのかどうか、全く疑問です。

平均寿命と平均所得の関係について言えば、平均寿命が延びることは発展ですが、平均寿命が延びることにより、総人口に占める高齢者の割合が高くなり、結果として労働人口の割合が減り、全体の平均所得が減る、ということもあります。平均寿命が伸びることは発展ですが、平均所得が減ることは後退です。

また、全国の多くの中小商店街がシャッター通りとなった原因の1つに、生活道路と高速道路が整備され、郊外に大きい駐車場スペースを持つ大型店が出来、消費者がそちらに流れた、ということがあります。商店街の空洞化はその地域にとって後退ですが、高速道路の整備は一般に発展と考えられます。

このように、ある地域のある1つの現象を見ただけでは、それが発展なのか、後退なのか、簡単には判断出来ないことが多くあります。

国単位で見ると、中国の一人あたりのGDPは日本より低いですが、人口一人あたりの医者数は日本より多いです。人口一人あたりの医者の数が多いことを、その地域の発展と考えるならば、中国の方が日本より発展しております。

インドの一人あたりのGDPも日本より低いですが、西暦2020年、今から7年後のインドの総人口に占める高齢者の割合は、日本より低いと予想されております。高い高齢化率はその地域の後退とするならば、これもやはりインドの方が日本より発展しております。

1つ目の質問です。我が釜石のリーダーになられた野田市長は、10月21日の市長選出馬の記者会見で、市民総参加で地域の発展を目指したい、とおっしゃっております。また大槌町との合併についても、地域の発展に避けては通れないとおっしゃっております。市長選挙用のパンフレットにおいても、釜石地域の振興発展のため政治家を志した、とおっしゃっており、当地域の発展はもとより、岩手の発展に努力してまいりました、とおっしゃっております。野田市長の考える我が釜石の発展、そして岩手の発展とは具体的に何のことを指すのか、市長の忌憚のないお考えを聞かせて下さい。

市長答弁：釜石の発展は、後期基本計画で定めております人口と経済の目標指数の達成であり、それを目指して取り組んで参りたいと思います。県においては、新しい地域経営の計画に定める県民所得の向上や、雇用環境の改善等が発展になります。

2つ目の質問です。昭和50年制定の我が釜石の市民憲章にも、「不屈の精神を持って郷土釜石の発展に励んできました」と書いてあり「若さと希望に満ちた近代都市に成長することを願う」と詩っております。近代都市とは非常に抽象的な単語ではありますが、私は、時代が変わり、市長が交代する度にある程度、この若さと希望に満ちた近代都市の定義が変わっても仕方がないのではないかと考えます。その地域が生き残る為には、変化する時代

を常に分析し、その地域が常にその時代に対応出来るように変化していかなくてはならないからです。市長の考える「若さと希望に満ちた近代都市」とは、具体的にどのようなものであるか、忌憚のないお考えを聞かせて下さい。

市長答弁：「若さと希望に満ちた近代都市」とは、活力あふれる取り組みによって地域が活性化した、発展する三陸沿岸の拠点都市であると考えます。

3つ目の質問です。既に、昭和53年策定の、我が釜石の第2次発展計画において、新しい時代にふさわしい生産性の高い工業の導入を促進する、という記載があります。今の釜石においても、新たな基幹産業の構築は、最重要課題です。昭和38年92,123人の人口を記録してから、今年で44年経ちます。そして昭和53年、我が釜石の第2次発展計画において、新たな基幹産業の構築を考え始めてから29年経ちます。言い換えれば、我が釜石は30～40年かけて衰退してきた、と言うことも出来ると思います。それならば、釜石経済の立て直しをするにも40年、半世紀ほど必要なのではないか、という仮説も成り立つと考えます。この仮説に対して、市長の忌憚のないお考えを聞かせて下さい。

市長答弁：豊さや幸せの尺度が大きく変化する中で、個人個人の生活を見れば決して衰退していない。今、私達に必要なのは、過去の40年前を目標にするのではなく、新しい未来に向かっていくことであると考えます。

市長への再質問

私は、市民のこの多様化した価値観の中で、果たしてすべての釜石市民が共通して望んでおることは何なんだろうと考えるのは市の施策の優先順位を決める上で欠かせないことなんだろうと思います。勿論すべての市民が同じことを望んでいるはずはありません。人口の増大を優先すべきだと考える市民もいれば、人口増大より福祉を優先してほしい市民もいるはずです。

私は平成17年を境に我が国の人口が減少に転じている現在において、釜石だけが人口が増えるとか、人口の減少が止まっているというのは、市町村合併などの手段をとらない限りやはり常識的に考えてちょっと難しいんだろうと考えます。

それでは市民が最低限望んでいることは何なのか。私は、何よりも家族全員でこの釜石で暮らしたいと思っているのではないかと考えております。親父、おふくろ、じいちゃん、ばあちゃん、息子夫婦、そして孫と。家族が出て行くことなくこの釜石に家族みんなで暮らしたいと思っていることが、釜石市民の共通の想いなのではないかと思います。家族が釜石から出て行くことなく、そして都会から息子夫婦、孫が帰って釜石に住む。家族がみんなで住んでいるから、家族の誰かが、弱くなったじいちゃん、ばあちゃんの面倒が看れる。その結果として釜石の人口が増えるのであって人口の増加が目的ではないと思います。

一人あたりの所得を上げることも今の釜石では難しいだろうと考えます。一人あたりの所得を増やすためには、今の賃金が上がるか、今の仕事を辞めてより賃金の高い仕事につくしかないのです。今の岩手の経済、雇用状況を見る限りこれも難しいと思います。

私は世帯あたりの所得を増やすことは何とか出来るのではないかと考えております。世

帯あたりの所得を増やすのは家族で働いていない人が、多少賃金は低くても仕事があり働くことが出来れば、世帯あたりの所得は増えます。賃金が低くても仕事があれば釜石に残るかもしれません。賃金が低くても仕事がある限り家族みんなで釜石に住むことが出来ます。そして世帯あたりの可処分所得も増えることになります。今、釜石にある様々な問題、医療格差、少子高齢化、商店街の空洞化、これらの問題は経済がある程度安定することによりある程度解決出来るんです。

私が考える釜石の発展とは家族全員が釜石で暮す為の、世帯あたりの所得の上昇であり、そしてその為最も優先させるべき施策は、有効求人倍率の上昇です。

質問致します。壇上からの質問の中で私が上げた様々な発展の形の中で、なぜ市長は人口の増加と所得の向上を釜石の発展としたのか教えて下さい。

もう1点。市民憲章には若さと希望に満ちた近代都市に成長することを願うと書いてあります。私はこの釜石において近代都市とは、人口、所得、医療、教育、交通網、文化施設、この、町を構成する6つの要素が整った町のことを言うのだと考えております。

先程の答弁では、近代都市を、交通基盤が整い、上下水道が整っている住民の利便性が高い地域とおっしゃってございました。これは、近代都市を、生活基盤の充実した、我々市民の住みやすい町のことを言っておると思うんですが。この定義、生活基盤の充実した町を、市長は先程の釜石の発展の形とした挙げなかったのですが、それで整合性がとれているのかどうか教えて下さい。

市長への再質問

平成3年から始まった平成不況により、政府の景気動向についての、好景気が続いているとのコメントにもかかわらず、我が釜石においては市民には景気が良いなどというそんな実感は全く感じられません。ここに来ての昨今の原油高は我々市民の生活を更に圧迫しております。

平成18年度、釜石で生活保護を受けている市民の方々は378世帯、536人いらっしゃいます。平成18年度の市民税の収入未済額は2,300万円程あります。先程の答弁で市長は、生活は格段に豊かになっており、個人個人の生活を見れば決して衰退していない、とおっしゃっております。釜石の現状に対する認識が違うのではないかという気がするのですが、発言の真意を聞かせて下さい。

あ と が き

去年は、38年生きて中で最も早く過ぎた1年でした。何が正しくて何が間違っているのか、何が大切で何が大切でないのかを正直に考え、市民の皆様にご恥ずかしくない生き方をしたいと考えます。小野共を今年も宜しく御願い致します。

小野共事務所 電話(ファックス)兼用 55-2730